

2024年度 北九州市平和のまちミュージアム年報



1945(昭和 20)年 4 月 アメリカ合衆国海軍第二写真解析部隊撮影の小倉陸軍造兵廠及び周辺市街地 (常設展示)

目 次

はじめに	館長 重信幸彦	1
第一部 事業概要		
I 施設概要及び沿革		
1 設立理念		3
2 開館の背景		3
3 施設概要		3
4 沿革		4
II 展示事業		
1 常設展示		5
(1) 概要		
(2) 各展示ゾーン		
2 360度シアター新映像コンテンツ制作		6
3 企画展示		7
(1) 「戦場からのことば～軍事郵便・遺書～」		
(2) 「八月九日を忘れるな！～小倉と原爆“if”の歴史～」		
(3) 「学徒らしくあれ～旧制中等学校の戦争史 門司・小倉編～」		
(4) 「まちとわたしたちの物語～令和6年度収蔵品展～」		
4 企画展ミニ図録製作		9
III 資料収集・保存事業		10
IV 映像資料		11
V 教育普及事業		
1 小学校来館時の展示解説		12
2 出前授業・オンライン授業		12
3 長崎市との交流事業		
(1) 青少年ピースフォーラム派遣事業		13
4 戦跡ツアー		14
5 連携事業		15
(1) 北九州市立大学博物館学芸員講座		
6 講演		15
(1) 出前講演		
(2) 北九州市民カレッジ		
(3) 国立市公民館平和講座における講演		
VI 人材育成事業		
1 ～考える・つながる・伝える～北九州市ピースフィールドクラブ		17

VII 広報

1 ホームページ・SNS関係	18
(1) ホームページの運用	
(2) LINE・ツイッター(現 X)の活用	
(3) 学芸員日記	
(4) Wi-Fi の提供	
2 西日本新聞北九州版へのコラム連載	18
3 取材記録	18
4 第 39 回福岡県高等学校総合文化祭における新聞部大会	20

VIII 組織

1 管理運営(事務局)	21
2 北九州市平和のまちミュージアム運営懇話会	21
(1) 概要	
(2) 運営懇話会開催状況(第 3 回運営懇話会)	

第二部 参考資料

1 2024 年度統計データ	25
2 2024 年度決算額	25
3 関係条例・規則	25

はじめに

館長 重信幸彦

2024年度を振り返って、この一年のキーワードをあげるなら「連携」と「拠点化」ということになるでしょう。

まず、春から秋にかけての二つの企画展は、大変に好評でしたが、いずれも単に当館の収蔵資料のみで展示を構築するのではなく、外部の施設との「連携」をとおして具体化しました。

春期企画展「戦場からのことば 一軍事郵便・遺書一」は、鹿児島県南九州市の知覧特攻平和会館の御協力をあおぎ、同会館所蔵の福岡県出身の特攻兵の遺書約40点のパネルをお借りし、当館所蔵の資料を合わせて展示を構築しました。そしてご協力下さった知覧特攻平和会館の学芸員・羽場恵理子氏をお迎えし、当館の企画展担当学芸員と共同で講演とセッションを実施しました。

そして夏期企画展「八月九日を忘れるな！ 一小倉と原爆^{もしも}“if”の歴史一」では、旧長崎医科大学(現長崎大学医学部)で被爆死した小倉出身の学生に焦点をあてた展示をつくり上げるとともに、長崎平和推進協会(長崎市)の御協力を得て、長崎に投下された原爆の写真パネルをお借りし、当館の多目的ホールで展示するとともに、八幡西生涯学習総合センター前のマーメイド広場等にも出張展示を実施しました。

また、八幡西生涯学習総合センターで長崎平和推進協会写真資料調査部会長・松田斉氏の講演会を行い、当館多目的ホールで、長崎の被爆の実相を写した記録写真に関するギャラリートークを実施しました。記録写真の解説をめぐる松田氏の御話は、来場者だけでなく、当館スタッフにとっても新たな学びがあり刺激的でした。

こうした「連携」による展示構築は、テーマの共有から史資料の選定まで、実は手間がかかり、担当学芸員の苦労は多くなります。しかしそれ以上に、それぞれの施設や団体が持つ蓄積と関わることで、平和のまちミュージアムの新たな可能性が広がります。私たちのミュージアムは、多様な施設とのつながりをつくり育てて、そうした関係性のなかで、初めて盤石な根を張っていくことができると考えています。それが、今、私たちがすすめている「拠点化」においても、大きな力を発揮すると信じています。

2024年度はこの「拠点化」についても、一つの事業をスタートさせました。当館が実施している「青少年ピースフォーラム派遣事業」参加者などからメンバーを募り、平和への実践を担う次世代を育成するために、「北九州市ピースフィールドクラブ」を立ち上げました。メンバーは中学から30歳までのユース世代で、ミュージアムを拠点として活動しています。

名称のなかの「フィールド」という言葉には、あらかじめあつらえられた場ではなく、メンバーがそれぞれ問題意識を持って、自ら動き、そして他者と関わり、語り合うなかで、初めてかたちになる「現場」という意味を含めました。ですから北九州市ピースフィールドクラブの拠点は平和のまちミュージアムですが、そのフィールドはどんどん広がっていくことでしょう。私たちはこの集団を、決してただのボランティア団体とは考えていません。今はまだ、当館のスタッフが活動のサポートをすることもあります。今に、この北九州市ピースフィールドクラブが、当館の、そして北九州市の平和への学びの実践をけん引してくれるようになることを、願っています。

その時、文字通り、平和のまちミュージアムは、「拠点」としての可能性を強固にしていくに違いありません。

第一部 事業概要

I 施設概要及び沿革

1 設立理念

- 市民の戦争体験や当時の暮らしを物語る資料などを保存・継承していく施設
- 戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さについて考える機会を提供する施設

2 開館の背景

戦時中、北九州地域(以下、「北九州」という)においては、1945年8月8日の「八幡大空襲」をはじめ、数多くの戦争の悲劇がもたらされた。また、8月9日には、原爆を搭載したB29が第一投下目標であった小倉陸軍造兵廠に飛来したが、視界が悪く第二目標の長崎に向かった。私たちは、現在の私たちの平和と繁栄が、過去の戦争による多くの尊い犠牲の上に成り立っていることを決して忘れてはならない。

戦後、長い時間が経過し、戦争の悲惨な体験や戦時下の暮らしを知らない世代がほとんどとなり、戦争の記憶が風化していくことが全国的に懸念される中、北九州市では、2010年に「北九州市非核平和都市宣言」を行い、様々な平和への取り組みを進めてきた。

そして、北九州で起きた戦争の悲劇や市民の暮らしを後世に伝える施設として、令和4年4月に「北九州市平和のまちミュージアム」を設置した。

3 施設概要

■ 名称

北九州市平和のまちミュージアム

■ 住所

北九州市小倉北区城内4番10号

■ 開館日

2022年4月19日

■ 構造等

鉄骨造(地上1階)約940㎡

■ 諸室構成

展示室(約340㎡)、収蔵庫(約125㎡)、多目的室(約70㎡)など

■ 入館料

	一般	中学生・高校生	小学生
個人	200円	100円	50円
団体(30名以上)	160円	80円	40円

■ 開館時間

9:30~18:00(最終入館は17:30)

■ 休館日

月曜日(祝日の場合は火曜日)、年末年始、その他(館内整理日)



4 沿革

- 2016 年 12 月 ・ 北九州市が戦時資料の充実を図り、資料を保存・調査研究・活用をするために「資料館」建設の計画を表明
 - ・ 「(仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会」設置
- 2017 年 1 月～ ・ 「(仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会」開催
 - 開催実績 第 1 回:2017 年 1 月 18 日
 - 第 2 回:2017 年 2 月 15 日
 - 第 3 回:2017 年 3 月 24 日
 - 第 4 回:2017 年 4 月 18 日
 - 第 5 回:2017 年 5 月 24 日
- 2018 年 1 月 ・ 「(仮称)平和資料館基本計画(案)」策定
 - 11 月 ・ 「(仮称)平和資料館基本設計(案)」策定
- 2019 年 8 月 ・ 「(仮称)平和資料館開設準備懇話会」設置
 - 8 月～ ・ 「(仮称)平和資料館開設準備懇話会」開催
 - 開催実績 第 1 回:2019 年 8 月 27 日
 - 第 2 回:2020 年 1 月 30 日
 - 第 3 回:2020 年 8 月 26 日
 - 第 4 回:2021 年 7 月 1 日
 - 第 5 回:2022 年 1 月 14 日
- 2021 年 10 月 ・ 「北九州市平和のまちミュージアム条例」公布
- 2022 年 4 月 ・ 19 日、「北九州市平和のまちミュージアム条例」施行、北九州市平和のまちミュージアム開館、開館記念式典開催
 - ・ 北九州市平和のまちミュージアム開館記念企画展「原子爆弾と模擬爆弾“パンプキン”」(4 月 19 日～8 月 28 日)
- 7 月 ・ 22 日、「北九州市平和のまちミュージアム運営懇話会」設置
- 9 月 ・ 企画展「“軍都”北九州の歩みとその痕跡」(9 月 3 日～10 月 30 日)
- 11 月 ・ 企画展「令和 4 年度 収蔵品展」(11 月 12 日～1 月 22 日)
- 2023 年 2 月 ・ 北九州市制 60 周年記念事業・企画展「『北九州市ができるまで』～戦後復興の軌跡～」(2 月 4 日～5 月 7 日)

- 4 月 ・ 開館 1 周年記念イベント開催(4 月 18 日～8 月 27 日)
- 5 月 ・ 北九州市平和のまちミュージアム開館 1 周年記念企画展「B-29 がやってきた～北九州初空襲～」(5 月 20 日～7 月 23 日)
- 6 月 ・ 18 日、日本展示学会賞受賞
- 8 月 ・ 企画展「〈灰色〉の日常－戦争を支えた人びとの暮らし－」(8 月 1 日～9 月 3 日)
- ・ 24 日、「北九州市平和のまちミュージアム運営懇話会」開催
- 9 月 ・ 企画展「われら少国民～戦時下の子どもたち～」(9 月 16 日～12 月 10 日)
- 12 月 ・ 企画展「あなたに語り継ぐ、北九州の思い出－令和 5 年度収蔵品展－」(12 月 23 日～4 月 7 日)
- 2024 年 3 月 ・ 18 日、博物館登録
- ・ 26 日、映像資料「北九州 ～戦争の記憶～2 私たちの約束」完成記者会見
- 4 月 ・ 24 日、「～考える・つながる・伝える～北九州市ピースフィールドクラブ」設立
- ・ 企画展「戦場からのことば～軍事郵便・遺書～」(4 月 16 日～7 月 15 日)
- 5 月 ・ 1 日、「360度シアター」新映像コンテンツ「北九州の戦跡～忘れてはならない歴史の語り部～」上映開始
- 7 月 ・ 企画展「八月九日を忘れるな！－小倉と原爆“^{もしも}if”の歴史－」(7 月 27 日～10 月 6 日)
- 10 月 ・ 企画展「学徒らしくあれ～旧制中等学校の戦争史 門司・小倉編～」(10 月 19 日～1 月 13 日)
- 2025 年 2 月 ・ 企画展「まちとわたしたちの物語－令和 6 年度収蔵品展－」(2 月 1 日～4 月 6 日)

Ⅱ 展示事業

1 常設展示

(1) 概要

北九州の戦前から戦後にかけて、五市合併による北九州市の成立にいたるまでの、地域の人々の暮らしの変化のなかに、北九州における戦争の時代を位置付けて展示している。市民の戦争体験の記憶や、当時の暮らしを物語る日用品等を通して、当館の目的の一つである、戦争の悲惨さや平和の大切さについて考える場を提供している。

常設展示の構築にあたっては、北九州市民の戦争体験の記憶 84 件を編集した『後世に語り継ぐ北九州市民の戦争体験』(北九州市総務局総務課 2017)を重要な資料として活用した。

展示にあたっては、実物資料に加え、来館者が当時の暮らしを体感できるよう、映像や音響設備を駆使している。

(2) 各展示ゾーン

「1 戦前の北九州」

旧五市(門司、小倉、若松、八幡、戸畑)の特色や、活気があった 1920 年代後半から 1930 年代の北九州の繁栄と市民の暮らしを展示している。また、小倉と軍との深い関わりを紹介し、プロジェクションマッピングを用いて小倉陸軍造兵廠をリアルに再現している。



「2 戦争と市民の暮らし」

当時の一般的な家庭の暮らしがわかる再現展示や、子どもたちの生活等がわかる実物資料を提示し、日々の暮らしが戦争と隣り合わせにあったことを語っている。



「3 広がる戦争と空襲」

当時の写真をはじめ、焼夷弾の実物大の模型など、市民を襲う空襲に関連する資料を展示している。特に「360 度シアター 運命の 1945 年 8 月 8 日・9 日」では、8 月 8 日の八幡大空襲、そして翌 9 日に原爆を搭載した B29 爆撃機が、投下第一目標地である小倉上空に飛来した後、第二目標地である長崎に向かった出来事を、アニメーションと最新の音響設備を駆使して再現した。



「4 終戦の混乱と戦後復興」

旧五市が復興への歩みを進める姿を映像や写真、実物資料で紹介し、再び発展を始め、1963 年に旧五市が合併して北九州市が誕生するまでの“まち”の移り変わりを語っている。



2 360 度シアター新映像コンテンツ制作

開館以来、360 度シアターでは、小学生も理解しやすいアニメーションの「運命の昭和

20 年 8 月 8 日・9 日」を毎時 00 分、15 分、30 分、45 分に上映していたが、北九州市内にある戦跡を実写で撮影し、臨場感あふれる 360 度の映像作品として新規に制作し、毎時 45 分に上映を開始した。

■ タイトル

「北九州の戦跡 ～忘れてはならない歴史の語り部～」

■ 時間

10 分 01 秒

3 企画展示

2024 年度は、他施設にも協力いただいて4回の企画展を実施した。北九州地域を中心としつつも他地域との関わりにも視野を広げた企画もあった。

(1) 企画展「戦場からのことば～軍事郵便・遺書～」

■ 協力

知覧特攻平和会館(鹿児島県南九州市)

■ 展示概要

戦争の時代を生きた人々の心情や、その時代の家族のあり方を探る企画展。戦地の将兵と銃後の家族・友人は、手紙を通じて互いの近況を知らせ、互いの身を慮り、また死を覚悟したものは、自らの思いを遺書として書き残した。本企画展では、当館所蔵の軍事郵便・遺書のほか、知覧特攻平和会館からお借りした貴重な資料を展示した。

開催期間中に、学芸員によるギャラリートークのほか、特別講演会を実施した。

■ 開催期間

2024 年 4 月 16 日(火) ～ 2024 年 7 月 15 日(祝・月)

■ 開催場所

北九州市平和のまちミュージアム内 企画展示室、多目的ホール

■ 学芸員によるギャラリートーク

2024 年 5 月 12 日(日)、6 月 16 日(日)のいずれも 14:00～14:30

■ 特別講演会「戦場からのことばを読む」

日時:2024 年 5 月 19 日(日) 13:30～15:30

場所:北九州市立子ども図書館 2 階 大研修室(小倉北区城内 4 番 1 号)

講師:小倉徳彦(平和のまちミュージアム 学芸員)「戦場から北九州へ」

羽場恵理子氏(知覧特攻平和会館 学芸員)「陸軍特別攻撃隊員とその遺書」

定員:80 名(無料)

(2) 企画展「八月九日を忘れるな！－小倉と原爆^{もしも}“if”の歴史－」

■ 共催

長崎市

■ 受託

■ 展示概要

長崎に投下された原子爆弾は、もともと小倉に投下される予定であった。「もしも小倉に原爆が落ちていたら…」北九州市民の原爆にまつわる“if”の歴史。この企画展では、長崎原爆資料館から原爆被災資料やパネルをお借りし、長崎原爆の実相を展示するとともに、北九州において長崎原爆がどのように語られてきたかを明らかにした。

また、当館だけでなく、八幡西生涯学習総合センター等においてもパネル展示や講演会を開催した。

■ 開催期間

2024年7月27日(土)～2024年10月6日(日)

■ 開催場所

北九州市平和のまちミュージアム内 企画展示室、多目的ホール

■ 関連イベント「長崎原爆パネル写真展示」

① 北九州市立八幡西生涯学習総合センター マーメイド広場(7月27日～8月18日)

② 北九州市立中央図書館 ロビー(8月1日～9月29日)

③ 北九州市折尾まちづくり記念館 オープンスペース(9月3日～9月29日)

■ 長崎パネル写真解説員によるギャラリートーク

2024年7月27日(土) 13:30～14:15

■ 学芸員によるギャラリートーク

2024年7月27日(土)14:30～15:00、9月7日(土)、9月22日(日)の14:00～14:30

■ 館長によるギャラリートーク

2024年8月9日(金) 14:00～14:30

■ 特別講演会①「写真で見る長崎原爆の実相」

日時:2024年7月28日(日) 10:00～12:00

場所:北九州市立八幡西生涯学習総合センター2階 大会議室

(八幡西区黒崎三丁目15番3号)

講師:松田斉氏((公財)長崎平和推進協会 写真資料調査部会 部会長)

定員:80名(無料)

■ 特別講演会②「わたしの被爆体験」

日時:2024年8月12日(月・休) 14:00～15:30

場所:北九州市立子ども図書館2階 大研修室(小倉北区域内4番1号)

講師:池田道明氏

定員:80名(無料)

(3) 企画展「学徒らしくあれ～旧制中等学校の戦争史 門司・小倉編～」

■ 展示概要

旧制中等学校(旧制中学校、高等女学校、実業学校)の学生(学徒)は、戦況が悪化してくると、いわゆる「学徒勤労動員(学徒動員)」により、軍需工場等での労働力に組み込まれた。彼らは勉学の機会を奪われ、厳しい労働へと従事し、「軍国少年」「軍国少女」

として「学徒らしく」あることを求められ、自らに課せられた役目を果たしていった。この企画展では、旧門司市及び旧小倉市に存在した旧制中等学校の戦時期の様子、戦争の時代を生きた 10 代半ばの少年少女たちの姿を探った。

開催期間中に、学芸員によるギャラリートークのほか、関連ミニ展示を実施した。

■ 開催期間

2024 年 10 月 19 日(土) ～ 2025 年 1 月 13 日(祝・月)

■ 開催場所

北九州市平和のまちミュージアム内 企画展示室

■ 学芸員によるギャラリートーク

2024 年 11 月 3 日(祝・日)、12 月 22 日(日)のいずれも 14:00～14:30

■ 関連ミニ展示「旧制中等学校の制服たち～門司・小倉編～」

日時:企画展と同時開催

場所:北九州市平和のまちミュージアム内 多目的ホール

(4) 「まちとわたしたちの物語ー令和 6 年度収蔵品展ー」

■ 協力

長谷川未来氏

株式会社ヒーローズ(東京都千代田区)

北九州市漫画ミュージアム(小倉北区浅野2丁目14-5)

■ 展示概要

令和 6 年度新たに市民から寄贈されたものを中心に、北九州ゆかりの資料を展示。また、北九州市門司区を舞台に“小さな戦争”の記憶を描いた漫画「生きとし生ける」の場面と関連する当館所蔵資料や作者(長谷川未来氏)へのインタビューや取材時に撮影した写真のパネル展示も同時に行った。

■ 開催期間

2025 年 2 月 1 日(土)～2025 年 4 月 6 日(日)

■ 開催場所

北九州市平和のまちミュージアム内 企画展示室、多目的ホール

■ 学芸員によるギャラリートーク

2025 年 2 月 15 日(土)、3 月 16 日(日)のいずれも 14:00～14:30

4 企画展ミニ図録制作

常設展示と異なり、企画展は期間限定の展示である。そこでミニ図録を制作し、記録として残すこととした。また、館内での販売も開始した。

■ 2024 年度発行図録

「八月九日を忘れるな！ー小倉と原爆^{もしも}“if”の歴史ー」 7 月 27 日発行

「学徒らしくあれ～旧制中等学校の戦争史 門司・小倉編～」 10 月 19 日発行

Ⅲ 資料収集・保存事業

■ 2024 年度の新規寄贈資料

2024 年 4 月～2025 年 3 月末までに、27 名の方から計 862 点の資料の寄贈を受け、目録化を行った。

新規寄贈資料のうち、代表的なものを以下に掲げる。

① 敵機爆音集



1943(昭和 18)年に発売された、アメリカ軍やイギリス軍の軍用機の飛行音を収録したレコード。学校教育において、音感教育の教材としても利用された。

② 体力章検定規格手榴弾



青少年の体位向上のため、昭和 10 年代後半に行われた体力章検定において、手榴弾投げに使用された模擬手榴弾。

③ 小倉陸軍造兵廠甲種健民修鍊所関係写真



小倉陸軍造兵廠で勤務する青年たちのうち、体の弱い者を受け入れて訓練等を行った、小倉陸軍造兵廠甲種健民修鍊所関係の写真。

■ 収蔵資料の点数（2025 年 3 月末現在）

	資料分類	点数		資料分類	点数
紙 類	手紙・はがき	917	金 属 類	金属製食器類	15
	債券・証券	390		飯盒	13
	通知書・証書・書類	792		水筒	17
	写真・アルバム	858		鉄兜	1
	日記・手記	38		弾丸・砲弾(安全確認済)	16
	手帳	59		金属製日用品	23
	書籍・冊子	303		その他金属類	30
	雑誌	82	そ の 他	勲章・記章類	296
	ビラ・チラシ	64		紙幣・貨幣・軍票	215
	絵画・ポスター	43		陶磁器類・ガラス類	308
	地図	19		その他食器	4
	新聞・スクラップ	80		木製物品	25
	通帳・切符	125		電球	1
	その他紙類	365		腕章	17
布 類	軍服類・軍帽	119		階級章(襟章・肩章類)	50
	軍靴・ゲートル	29		フィルム・ビデオ	5
	その他軍用品	41		レコード	7
	カバン・行李	25		木箱類	15
	防空頭巾	2		その他雑類	74
	一般衣類	14			
	袋類	27			
	日の丸寄せ書き	32			
	千人針	4			
	その他布類	51			
合 計					5,611

IV 映像資料

■ 既存資料

「北九州 ～戦争の記憶～ 私たちへの伝言」(DVD)

「北九州 ～戦争の記憶～2 私たちの約束」(DVD)

「嘉代子桜」(DVD)

V 教育普及事業

当館では、資料収集や展示だけでなく、小・中学校等学校の来館誘致、各種講座の企画、長崎市や広島市等との交流事業などに多くの力をそそいできた。こうした事業と、展示事業との相関のなかで、より幅広くそして深い学びにむけた筋道を作り出すことを目指している。

また、前年度に続き、2024 年度も北九州市立大学を始めとする近隣の大学との連携に注力した。教育機関でありまた研究機関でもある大学との連携は、若い世代と当館との関係を構築するとともに、当館の調査・研究機能を一層高度にしていくために重要であると位置づけている。

1 小学校来館時の展示解説

■ 概要

2022 年度、2023 年度の 2 年間で実施した平和のまちスタディツアー事業※は、学校関係者の認知度向上や学習プログラムの周知という当初の事業目的をおおむね達成したため終了したが、2024 年度も引き続き来館した小学校には平和のまちスタディツアーと同様に、子どもたちの関心を高め理解を助けるべく学芸員等による館内展示の解説を継続した。

当該事業は原則小学校を対象としているが、希望により中学校、高校等にも実施している。

※ 原則市内小学校の 6 年生を対象に近隣施設と組み合わせた選択コースを設定し、バスを利用して来館を促す事業

■ 実績

市内小学校 18 校 1,191 人

市外小学校、市内外の中学校、特別支援学校 8 校 187 人

2 出前授業・オンライン授業

平和のまちミュージアムへの来館を促すだけでなく、館から学芸員等職員が学校等に向いての平和授業や通信技術を活用したオンライン授業などを行っている。

(1) 出前授業

実施日	校名	対象	担当者	参加人数
6 月 11 日(火)	福岡県立小倉高等学校	1 年生	小倉徳彦学芸員	26 名
7 月 5 日(金)	北九州市立中島小学校	6 年生	小倉徳彦学芸員	32 名
9 月 5 日(木)	福岡県立若松高等学校	(定時制)	水谷桃子学芸員	40 名
10 月 24 日(木)	北九州市立大積小学校	6 年生	水谷桃子学芸員	15 名

(2) オンライン授業

実施日	主催	対象	担当者	参加人数
7月2日(火)	未来へのとび らオンライン 教育支援室	北九州市の「未来へのとび らオンライン教育支援室」に 登録している小学5年生か ら中学3年生	水谷桃子 学芸員	約70名

3 長崎市との交流事業

(1) 青少年ピースフォーラム派遣事業

北九州市では市の平和事業の一環として、2014年より青少年ピースフォーラム派遣事業を実施してきた。2022年度からは当館が事業を引き継ぎ、当館の展示の見学、講義などにより、事前学習を十分行ったうえで、長崎派遣に臨むなど、深い学びの経験となるよう工夫している。

■ 概要

全国の小・中学生等が長崎市に集い、被爆体験講話や平和祈念式典への参加などを通じて被爆の実相や平和の尊さを学習する「青少年ピースフォーラム」(長崎市主催)に小中学生等を派遣し、全国から派遣される青少年と一緒に被爆の実情等を学習した。

■ 日程及び内容

① 保護者説明会及び事前研修会

日程：2024年8月4日(日) 9:30～12:30

場所：北九州市平和のまちミュージアム 多目的ホール

② 青少年ピースフォーラム参加

日程：2024年8月8日(木)～9日(金) (1泊2日)

行程：8月8日(木) 8:00～

市役所本庁舎集合・出発 → 【長崎市へ移動】 → 城山小学校見学 → 昼食
→ ピースフォーラム(被爆体験講話・フィールドワーク等) → 「平和の灯」用
キャンドル絵付け → 夕食・ミーティング → 宿泊先(諫早市)

8月9日(金) ～19:30

宿泊先 → 原爆資料館見学 → 平和祈念式典への参加(一部は出島メッセ
にて式典同時中継を視聴) → 昼食 → ピースフォーラム(平和学習会(意
見交換会)) → 【北九州市へ移動】 → 市役所本庁舎着・解散

③ 事後報告会(総務市民局長報告)

日程：2024年8月21日(水) 14:00～15:30

・ 14:00～14:35 局長報告

・ 14:45～15:30 事後報告会

場所：J:COM 北九州芸術劇場 小劇場

概要：青少年ピースフォーラムでの学習について、局長への報告や感想を発表する。

■ 参加者

市内に居住する小学生(5、6年生)、中学生、高校生 19 名 ※ 応募者 60 名

区分	小学生	中学生	高校生	計
人数	8(30)	7(24)	4(6)	19(60)

※()は応募者

引率者として、市職員 2 名、ボランティア 4 名(北九州市ピースフィールドクラブ)、そのほかに看護師 1 名

■ 参加者の感想(抜粋)

- ・ いままでしらなかったこともあって、平和についてりかいがふかまった。
- ・ 個人で行ったら体験できないような体験ができた。だからこそより深い学びが得られ、もっと考えることができるようになったと思う。
- ・ 原爆や戦争、平和について今まで知らなかった事実を知り、深く考えることができた。一緒に参加した北九州の人たちと友達になれ、県外の人と意見交換ができた。
- ・ 戦争や平和の大切さについて考える機会が少ないので、自分の気になることについて、しっかりと考えることができた。
- ・ 被爆者から直接講話を聞いたり、平和祈念式典への参列など、一生に一度体験できるかわからないようなことを体験できた。
- ・ 私は平和や戦争の事を全く知らなかったなので、この事業をきっかけにいろいろなことを学べた。



4 戦跡ツアー

■ 概要

北九州市には、200 件を超える戦跡があり、身近に戦跡が存在している。普段なかなか足を運ぶ機会のない、そうした戦争遺跡をめぐりながら解説を聞くことは、北九州地域における戦時を学び考える契機となる。こうした野外の遺跡巡りは、当館の「野外博物館」的な側面を開拓するためのモデルケースでもある。

戦跡の解説は、当館小倉徳彦学芸員があたった。

【見学コース】

「到津八幡神社(錦春稻荷神社等)」～「東大野八幡神社(東谷護国神社)」～「陸上自衛隊小倉駐屯地史料館」～「工兵第十二大隊演習用施設跡」～「忠霊塔(平和公園)」

■ 日時

2025 年 3 月 23 日(日) 9:30~17:00

■ 参加者

24 名



5 連携事業

(1) 北九州市立大学学芸員課程への協力

■ 担当授業

博物館展示論(2024 年度後期) ※全 15 回のうち 3 回

■ 講義担当職員

平和のまちミュージアム学芸員 小倉徳彦

■ 講義内容

- ① 平和のまちミュージアムの常設展示について
- ② 歴史資料の展示および展示に関わる諸問題
- ③ 平和のまちミュージアムの企画展示

■ 概要

北九州市立大学文学部が開講する、学芸員資格取得のための授業の一つで、オムニバス形式で北九州市内の博物館の学芸員等が登壇する「博物館展示論」のうち、3 回分の講義を、昨年度に引き続き平和のまちミュージアムが担当。平和のまちミュージアムの展示設計や、歴史系博物館の展示等について、講義を行った。受講者にはレポートを課し、成績評価の一部も担っている。また、同大学文学部開講の「博物館実習Ⅰ」について、平和のまちミュージアムの館内見学に関する便宜を図っている。

6 講演

当館の学芸員をはじめとする職員が、依頼を受けて、以下のような講演を行った。

(1) 出前講演

日程	イベント名	講演タイトル	場所	担当
10月11日(金)	令和6年度 福岡県公文書館等連絡会議	「北九州市平和のまちミュージアムとアーカイブズ」	北九州市立文書館	小倉徳彦 学芸員
11月9日(土)	折尾まちづくり記念館「謎解きテラス」	「学芸員が語る、北九州が体験した戦争！平和のまちミュージアムからみる北九州と戦争」	折尾まちづくり記念館	小倉徳彦 学芸員
12月17日(火)	北九州プロバスクラブ「卓話会」	「写真で見る軍都・小倉の歩み」	THE STEEL HOUSE	小倉徳彦 学芸員

(2) 北九州市民カレッジ

■ 担当

平和のまちミュージアム館長 重信幸彦

■ 講座タイトル

『新・平和学習』のあり方を考えるⅡ」

第1回 聞き書きで証言をのこす活動とは～民俗学的視点から学ぶトークセッション

■ 主催

北九州市立生涯学習総合センター

■ 実施日時

2024年6月1日(土) 14:00～16:00

■ 場所

北九州市立生涯学習総合センター

■ 概要

三部構成で、第一部は戦争体験者の語り、第二部は当館重信館長による民俗学的視点での継承活動の意義についての解説、第三部は第一部、第二部の講師に講座コーディネーターを加えたトークセッションが実施された。

■ 参加者

37名

(3) 国立市公民館平和講座における講演

■ 担当

平和のまちミュージアム館長 重信幸彦

■ 講座タイトル

「国立市公民館主催・平和講座 家族たちの戦争② 総動員の戦時下と『美談』」

■ 主催

国立市

■ 実施日時

2024 年 11 月 9 日(土) 14:00～16:00

■場所

国立市公民館 3 階講座室

■概要

先の日本の総力戦下に編まれた「銃後美談集」を素材に、人々の「善意」を媒介とした、戦争への「前のめり」の姿勢が生み出されていた状況について講義した。その後、参加者との質疑応答を中心としたセッションを行った。

■参加者

25 名

VI 人材育成

1 ～考える・つながる・伝える～北九州市ピースフィールドクラブ

2024 年 4 月 24 日、当館を活動拠点とし、世代を超え多くの人と繋がり、仲間と共に様々な視点から戦争の悲惨さ、平和の大切さ、命の尊さを学び、継承し、自ら行動・発信することができる人材を育成することを目的に、「～考える・つながる・伝える～北九州市ピースフィールドクラブ」(愛称:ピーフィ)を設立し、その活動を支援している。

■ 公募対象

中学校から 30 歳までのユース世代

■ 2024 年度メンバー構成

中学生 7 名、高校生 5 名、大学生・一般 12 名 合計 24 名

■ 2024 年度の主な活動

7 月 28 日(日) 事前説明会・研修会

活動開始にあたり、事前説明会・研修会を実施

10 月 12 日(土)～13 日(日)「長崎研修&交流会」

長崎市を中心に原爆資料館や戦争遺跡を見学し、長崎ピースボランティア及び広島中・高校生ピースクラブとの交流会に参加した。

11 月 30 日(土)「千羽鶴再生プロジェクト」

当館に寄せられた千羽鶴を紙に漉きなおし、寄贈した団体に差し上げるとともに、ピーフィメンバーの名札を作成するなどした。

1 月 19 日(日)「～門司空襲～ある少女の足跡をたどるワークショップ」

門司空襲体験者(当時 11 歳)をお招きし、空襲の前日から当日、そして翌日までの足取りを、当時の地図に時系列に沿って書き込みながら、「門司空襲」の実相に迫るワークショップを開催した。

2 月 11 日(火・祝)「ピーフィ&平和のまちミュージアム フォトスポット」

ピーフィメンバーデザインのフォトスポットを開設。3 月 30 日まで来館者に呼びかけ、フォトスポットを飾るランタン制作をしてもらった。

3 月 9 日(日) 修了式

Ⅶ 広報

1 ホームページ・SNS関係

(1) ホームページの運用

開館時からホームページを開設し、随時更新を行っている。常設展示室の紹介、展示替えをはじめ、企画展やイベントの告知を行っている。

(2) LINE・Xの活用

LINEやXでの情報発信を開始し、特別企画展をはじめとする各種イベントや案内等を随時行った。

(3) 学芸員日記

北九州の戦争・平和に関連するエピソードや歴史資料の解説、また、当館の取り組みなどを学芸員の視点で紹介する「学芸員日記」を隔週金曜日に公式ホームページで発信した。

(4) Wi-Fi の提供

入館者へのサービスとして、Wi-Fi を無料で公開している。

2 西日本新聞北九州版への連載

■ 連載日

第1木曜日、第3木曜日の月2回

■ 概要

「想い つなぐ」をテーマに、「平和のまち 北九州」に関することを連載する。市民の知的な関心に訴えるとともに、普段は詳しく語ることのない当館の展示の姿勢や史資料の調査研究をはじめとするバックヤード業務、企画展の構想過程など、広く親しみをもっていただける内容とする。

■ 執筆者

平和のまちミュージアム 館長 重信幸彦、学芸員 小倉徳彦、学芸員 水谷桃子

3 取材記録

取材月日	放映・放送・ 掲載日	メディア	取材対象
4月16日	4月16日	NHK 北九州放送局	企画展について
4月16日	5月9日	TNC	企画展について
4月16日	4月16日	TVQ九州放送	企画展について
4月16日	4月16日	FBS	企画展について

4月16日	4月24日	読売新聞	企画展について
4月17日	5月1日	西日本新聞	企画展について
4月23日	4月23日	KBC	企画展について
4月26日	5月18日	毎日新聞	企画展について
4月30日		読売新聞	事業について
4月30日	5月8日	西日本新聞	事業について
4月30日		朝日新聞	事業について
4月30日		北九州ノコト	事業について
5月14日		NHK 北九州放送局	事業について
5月19日	5月20日	毎日新聞	企画展について
5月19日	5月21日	西日本新聞	企画展について
6月6日	6月17日	朝日新聞	取材調査協力
6月7日	6月15日	読売新聞	取材調査協力
6月8日	6月16日	西日本新聞	取材調査協力
6月14日	6月29日	読売新聞	取材調査協力
6月15日	8月1日	北方ジャーナル	事業について
7月2日		共同通信	取材調査協力
7月4日		NHK 福岡放送局	取材調査協力
7月27日、 8月9日		朝日新聞	企画展について
7月27日	8月9日	TNC	企画展について
7月30日	8月24日	RKB	取材調査協力
7月30日	7月30日	NHK 北九州放送局	企画展について
7月30日	8月12日	RKB	取材調査協力
7月31日	8月7日	西日本新聞(久留米)	取材調査協力
8月1日	8月10日	西日本新聞	企画展について
8月2日	8月4日	毎日新聞	企画展について
8月7日	8月9日	読売新聞	企画展について
8月8日	8月9日	KBC ラジオ	企画展及び事業について
8月8日、 9日、12日	8月12日	FBS	企画展について
8月12日		RKB	企画展について
8月12日		西日本新聞	企画展について
8月15日		西日本新聞	企画展について
8月21日	8月21日	NHK 北九州放送局	事業について
8月21日	8月30日～	JCOM	事業について
8月21日		読売新聞	事業について
9月6日	9月13日	NHK 福岡放送局	事業について
10月22日	10月22日	NHK 北九州放送局	企画展について
10月22日	12月29日～ 12月31日	㈱ケーブルメディアワイワイ (宮崎県)	取材調査協力
11月6日	11月15日	TNC	取材調査協力

11月10日	12月19日	東京新聞	取材調査協力
12月10日	12月20日	西日本新聞市内版	企画展について
12月11日	12月11日	NHK 北九州放送局	取材調査協力
12月20日	1月25日	毎日新聞 京築版	取材調査協力
12月20日	1月1日	西日本新聞	取材調査協力
1月19日	1月19日	RKB	事業について
1月19日	1月23日	FBS	事業について
2月7日	2月12日	NHK 山口放送局	取材調査協力
	2月15日～ 21日	J:COM	企画展について
2月8日	3月20日	NHK ラジオ第1(東京)	取材調査協力
2月19日	3月の月曜日	FM ラジオ Air Station Hibiki	事業について
3月25日	3月26日	FBS	取材調査協力

4 第39回福岡県高等学校総合文化祭における新聞部大会

■ 概要

高等学校(特別支援学校高等部含む)の芸術文化活動の育成・振興のため実施されている福岡県高等学校総合文化祭の一環で、県内の高等学校新聞部の合同取材を受けた。

■ 日時

2024年11月9日(土)

■ 主催

福岡県高等学校芸術・文化連盟及び福岡県教育委員会

■ 共催

北九州市

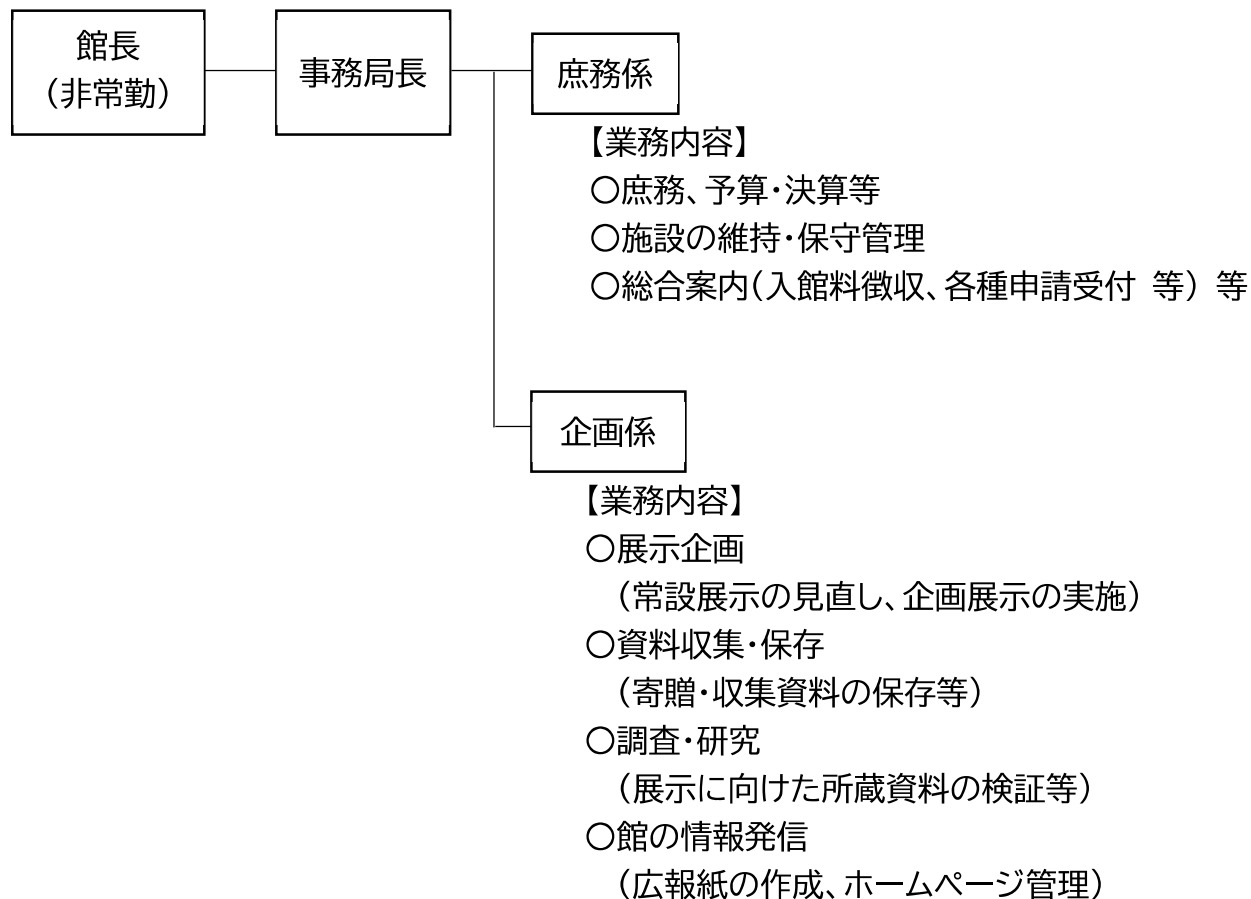
■ 担当者

平和のまちミュージアム企画係長 三角純子、学芸員 小倉徳彦、職員 原昭仁

VII 組織

1 管理運営(事務局)

7名の職員(うち学芸員2名)で当館の運営を行っている。



2 北九州市平和のまちミュージアム運営懇話会

(1) 概要

■ 設置目的

「北九州市平和のまちミュージアム」の運営や展示等について、有識者等から意見を聴取し、今後の運営や事業の参考にするため「北九州市平和のまちミュージアム運営懇話会」を設置する。

■ 審議事項

- ・ 当館が実施する運営(事業計画・実績報告)に関すること
- ・ 当館が実施する事業・展示に関すること 等

■ 任期

2年間(2025年1月27日～2027年1月26日)

■ 委員名簿(所属は当時のもの)

委員構成5名(うち女性3名:女性比率:60%)

氏名	所属・補職	備考
近藤 倫明	北九州市立大学名誉教授	座長
海上 尚美	北九州工業高等専門学校生産デザイン工学科 准教授	副座長
出口 敬子	聞き書きボランティア「平野塾」副代表	
戸高 一成	呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)館長	
原田 千優	～考える・つながる・伝える～ 北九州市ピースフィールドクラブ	

(2) 運営懇話会開催状況(第3回運営懇話会)

■ 開催日

2025年1月27日(月) 10:00～11:30

■ 報告及び議題

- ・ 報告 平和のまちミュージアムの管理・運営の状況
- ・ 議題 ミュージアム運営の今後の方向性

■ 主な意見

【ミュージアムの運営体制】

- 運営体制については、施設の目的を明確にしたうえで、それを達成するために、指定管理等も含めてどういった運営体制がベストかを考えるべき。その形は、施設ごとに異なるので、みんな一緒ということにはならない。また、市の直営であったとしても、個々の事業を民間に発注してノウハウを生かすということで館としての成果をあげることも考えられる。

【運営の方向性】

- 広報について、その方法、対象の地域をもっと広げて、館を訪れた子どもたちの発見や感想なども発信してはどうか。
- 資料の効果的な活用には、資料の持つ意味など説明を加えることが必要で、それにより、理解が深まる。これまで収集してきた資料の中には、たくさんの宝物が含まれている。
- 学校との関係では、教員に訴えることはすごく大切で、教育委員会の後援という形で、夏休みに半日でも研修会等ができないかと思う。
また、企画展の図録が気軽に地域の書店で手に入ったりすれば、授業での活用につながる事が考えられる。
- ミュージアムのロケーションが素晴らしく、周りにミュージアムや図書館などが集積している。こうした施設との連携を図ることで相乗効果が生まれるのでは。例えば、ミュージアムに多くの書籍を配置することは難しいが、図書館や子ども図書館の書籍の活用を図る等。

- 戦後80年を迎え、実体験を直接伝えることが難しくなっており、今後は、想像力を使って考えることが必要になる。想像できる力というものをどういうふうに伝えていくのが課題と言え、若者たちが担い手としてクラブをつくって活動するというのは、重要な取組といえる。

第二部 参考資料

1 2024 年度 統計データ

■ 入館者数

総 数	常設展・企画展入館者				その他入館者
	大 人	中 高 生	小 学 生	未就学	
15,741	10,516	1,753	2,377	248	847

2 2024 年度決算額

22,001,853 円

3 関係条例・規則

(1) 北九州市平和のまちミュージアム条例(令和3年10月1日)

(設置)

第1条 先の大戦における戦争被害、戦時下の人々の暮らし等に関する資料の収集、保存、展示等を行うこと等により、市民に戦争の悲惨さを伝え、もって市民が平和の大切さや命の尊さを考えるきっかけとするため、北九州市平和のまちミュージアム(以下「ミュージアム」という。)を北九州市小倉北区城内4番10号に設置する。

(事業)

第2条 ミュージアムは、次に掲げる事業を行う。

- (1) 先の大戦における戦争被害、戦時下の人々の暮らし等に関する資料の収集及び保存に関する事業
- (2) 前号の資料の展示に関する事業
- (3) 第1号の資料の調査及び研究並びに平和に関する学習の機会の提供に関する事業
- (4) 平和に関する多世代の交流の促進及び情報の発信に関する事業
- (5) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事業

(使用の許可)

第3条 ミュージアムを使用しようとする者は、あらかじめ、市長の許可を受けなければならない。

2 市長は、ミュージアムの使用が次の各号のいずれかに該当するときは、前項の許可をしないものとする。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を害するおそれがあると認めるとき。
- (2) ミュージアムの設置の目的に反するとき。
- (3) ミュージアムを損傷するおそれがあると認めるとき。
- (4) 前3号に掲げる場合のほか、ミュージアムの管理上支障があると認めるとき。

(使用の許可の取消し等)

第4条 市長は、ミュージアムの使用が次の各号のいずれかに該当するときは、前条第1項

の許可を取り消し、当該使用を拒み、若しくは制限し、又はミュージアムからの退去を命ずることができる。

(1) 前条第2項各号のいずれかに該当するとき。

(2) この条例若しくはこの条例に基づく規則若しくはこれらに基づく処分に違反し、又はこれらに基づく関係職員の指示に従わないとき。

(3) 詐欺その他不正の手段により許可を受けたとき。

(観覧料)

第5条 市は、ミュージアムの陳列品の観覧につき、別表に定める観覧料を徴収する。

2 観覧料は、使用の許可の際に納入しなければならない。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(観覧料の減免等)

第6条 市長は、公益上その他特に必要があると認めるときは、観覧料を減免し、又は観覧料の徴収を猶予することができる。

2 既納の観覧料は、返還しない。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(委任)

第7条 この条例に規定するもののほか、ミュージアムの管理に関し必要な事項は、市長が定める。

付 則

この条例は、規則で定める日から施行する。

(令和4年規則第24号で令和4年4月19日から施行)

別表(第5条関係)

区分	一般	中学校及び 高等学校の生徒	小学校の児童
個人	200円	100円	50円
団体(30人以上)	160円	80円	40円

(2) 北九州市平和のまちミュージアム条例施行規則(令和4年4月1日)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、北九州市平和のまちミュージアム条例(令和 3 年北九州市条例第 25 号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第 2 条 ミュージアムの開館時間は、午前 9 時 30 分から午後 6 時まで(入館は、午後 5 時 30 分まで)とする。

2 前項の規定にかかわらず、市長が特に必要があると認めるときは、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第 3 条 ミュージアムの休館日は、次のとおりとする。

(1) 月曜日(その日が国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日に当たるときは、その翌日)

(2) 12 月 29 日から翌年の 1 月 3 日までの日

2 前項の規定にかかわらず、市長が特に必要があると認めるときは、休館日を変更し、又は臨時に休館日を指定することができる。

(観覧料の返還)

第 4 条 条例第 6 条第 2 項ただし書の市長が特別の理由があると認めるときは、天災その他使用者(条例第 3 条第 1 項の許可を受けた者をいう。)の責めによらない事由により、当該使用者がミュージアムを使用することができないときとし、既納の観覧料の全額を返還する。

(損害賠償の義務)

第 5 条 ミュージアムの施設又は設備に損害を与えた者は、その損害を賠償しなければならない。

(その他)

第 6 条 この規則の施行に関し必要な事項は、総務市民局長が定める。

(令 6 規則 18・一部改正)

付 則

この規則は、令和 4 年 4 月 19 日から施行する。

付 則(令和 6 年 3 月 29 日規則第 18 号)抄

(施行期日)

1 この規則は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

2024 年度 北九州市平和のまちミュージアム年報

編集・発行 北九州市平和のまちミュージアム

〒803-0813 北九州市小倉北区城内4番10号

電話 093-592-9300 FAX 093-592-9305

URL <https://kitakyushu-peacemuseum.jp/>